

放射線技師として関わった他の組織での活躍（スキルの紹介）

はじめに

本企画は人材育成の観点から所属施設と異なる組織で活動した経験を東北支部の会員から東北支部令和6年度学術講演会「人材育成を考える」に報告いただいたものである。

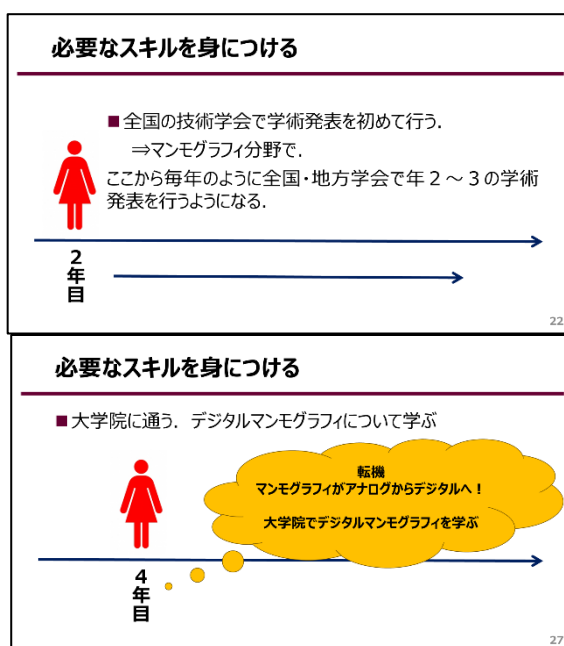
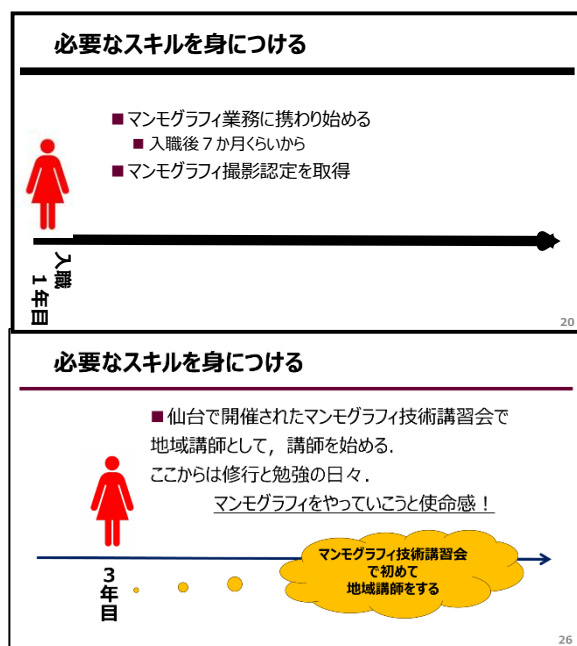
診療放射線技師として関わった他の組織での活動を共有することは自身のキャリアや業務において、将来的な方向性、キャリアパスやスキルアップの方針を見直す一助になるかもしれません。

一題目は、「マンモグラフィにおける人材育成（認定機構での活動経験から）」として東北大学病院の千葉陽子さんに、二題目は、「治験と診療放射線技師との関わり」として山形大学医学部附属病院の大場誠さんの講演を報告する。

●マンモグラフィにおける人材育成（認定機構での活動経験から）

東北大学病院 千葉陽子

千葉陽子さんは、乳がんによる死亡率低減のための高品質なマンモグラム、マンモグラフィ検診の重要性を認識し、日本乳がん検診精度管理中央機構（以下、精中機構）で技術委員として活動された経験を紹介された。教育・研修員会で活動する 技術委員の役割は、医師・技師に対して診断精度を一定に保つために読影、撮影などの教育研修の実施と評価を行うこと。上級研修による質の確保を図るため、認定者に対し 更新講習会を開催し、試験による客観的評価を行うことであり、日本全国に20名弱の技術委員が配置されていることが紹介された。また、自身が必要なスキルを身につけるまでの過程や学会発表と成果なども報告されている。指導する立場になるには、単純に教示されるだけではなく能動的な学びが不可欠なこと、それが自身のスキルとなることを報告された。



● 治験業務と診療放射線技師との関わり

山形大学医学部附属病院 放射線部 大場 誠

大場誠さんは、同大学の臨床研究管理センターで臨床研究（治験）コーディネータとして業務された経験の報告を行った。基本となる医薬品（治験薬）開発までの流れ、臨床研究コーディネータ（CRC）の役割・仕事内容、診療放射線技師としての治験へのアプローチについて紹介された。他部門の仕事を経験し改めて放射線業務の見直しができたとの報告が行われた。

